

# 「豆撒き 福は内！」

—本校教育活動の評価—



ウメ

花言葉・・・気品

校長 山浦 麻紀

机上のカレンダーが、庭先で楽しそうに豆撒きをしている童たちの絵になりました。そこには、「庭先で 豆撒く子らの 楽し声」と書かれています。

新年の御挨拶をしたばかりとっていましたのに、早いもので、もう節分の時期となりました。節分とは文字通り季節を分ける日、(立春・立夏・立秋・立冬)の前日のことです。季節の変わり目には邪気(鬼)が生じると考えられており、それを追い払うため古くから行事が執り行われています。立春の前日には、一年の無病息災を願う「豆撒き」があります。豆は「魔滅」に通じ、豆を撒き、鬼に豆をぶつけることにより邪気を追い払います。また、豆を食べると、体が丈夫になり、風邪をひかないという習わしもあるそうです。さらには、恵方巻を食べることも有名です。大正初期に大阪の商人が商売繁盛を願って食べたことが始まりと言われています。福を巻き込むということから太巻きを食べます。縁を切らないという意味で切らずに長いまま、口から福が逃げないようにという意味で、無言で食べるのです。因みに、今年の恵方は「南南東」です。

今、3年生にとって大事な時期に入っています。近年、公立高校も含めてインターネット出願で行う高校が殆どになりました。高校入試は、自分の夢に向かっての第一歩を記す時でもあります。私も、面接練習で生徒一人ひとりと接する機会があり、緊張感が伝わってきました。これまでは、誰もが同じ道を歩んできたわけですが、これからは自分で道を切り拓いていかなければなりません。**気品の岸、3年生の眼は優しく、力強く輝いています。**ここで、3年生との面接のやりとりの一部を紹介します。

まず、「将来、思い描いている職業や夢はなんですか。」の質問に、人の役に立つ職業、人を喜ばせる職業に就きたいという答えが多く返ってきました。続けて、「これからもどのような努力をしていきたいですか。」と質問すると、多くの生徒が、「学力をさらに付けるのはもちろんですが、自分という人間を高めること、コミュニケーションのとれる人間になるように努力したい。」と答えが返ってきました。また、「岸中学校の良いところはどんなところですか。」の質問では、「誰もが当たり前のこと、当たり前でできること。挨拶、日本一。勉学に励むだけでなく、自分のやってみたい事にも熱心に取り組むことができること。」と答えが返ってきました。誰もが、私が想像する以上の答えで頼もしさを感じています。そして、多くの岸中生が自分をしっかり見つめ、将来を描いていることも実感しました。誰もが自分の夢に向かっての第一歩、祈ります。

さて、今年度も「岸中学校の教育活動に対して」の学校評価を教師・生徒・保護者の方を対象に実施しました。保護者の方からも高くあたたかい評価をいただき有難うございました。生徒対象に尋ねた「**学校は楽しいと思う**」では、98%の生徒が「ある」と答えてくれました。そして「**先生方は、私たちの悩みや相談に親身になって聴いてくれますか?**」では97%の生徒が聴いてくれると答えてくれました。引き続き100%を目指し、私達教職員は一丸となって、教育目標に掲げた「心と心の通い合う学校づくり」を念頭に、一人ひとりに寄り添った教育を展開してまいります。これからも、一層の御支援、御協力をお願いします。